

# 変わる大学選びの基準 保護者が持つべき 観点は？

～大学選びの5つのチェックポイント～

テクノロジーの発展やグローバル化の進行などにより、現代社会は大きく変化しています。大学を取り巻く環境、大学に期待される役割が変わる中で、進学先を検討する際に持っておきたい観点は何か？ 高等教育の最新事情に詳しい専門家が解説します。



(株)進研アド「Between」編集長  
なかむら なおし  
中村浩二  
1990年(株)福武書店(現ベネッセコーポレーション)に入社。高校事業部にて高校の教育改革支援に携わった後、(株)進研アド九州支社勤務を経て現職。

問われるのは知識ではなく「知識を使いこなす力」

これまでは大学選びの基準として「入試難易度(＝偏差値)」や「知名度」が重視されてきました。しかし、今後は、大学が提供する「教育の内容」をしっかり吟味して進学先を選ぶべきです。これまで偏差値や知名度が重視されてきたのは、偏差値が高い有名大学に進んだほうが社会から高く評価され、就職に有利だったからです。しかし、今は未来が予測困難な時代に突入しています。ここで求められるのは、すぐにアップデートされてしまう知識ではなく、学んだ知識を使いこなす能力、目標に自分を当てはめるのではなく、自分の「得意」や「好き」を生かして将来のビジョンを描く能力です。つまり「何ができるのか、どう生きたいか」が問われるようになるのです。

若者はこの問いに対して「大学で○を学んできたから、こういうことができる」「得意な○を通して、将来、□□になりたい」と明確に答えることが求められます。したがって、大学選びで「その大学で身に付く力は何か」「どのような教育内容を設けて、学生を成長させようとしているのか」を確

認する必要があるでしょう。

では、具体的にどのような観点で教育内容を見ていけばよいのでしょうか？ 3つの観点をご紹介します。

1つめとしては「課題解決型学習(PBL)」を取り入れているかどうかです。PBLは、これまで学んだ知識を活用し、実社会に即した課題の解決に取り組むものです。正解が1つではない問題に取り組む姿勢や論理的思考力、課題発見・解決力が養成され、チームで協働する力も磨かれます。

2つめは「学生の能力や成長を可視化するしくみがあるかどうか」です。自分の強みを客観的に評価するツールがあるか、また、可視化した結果を次の成長につなげられるしくみを設けているかも見べきポイントです。

3つめは「グローバルな体験をする機会を設けているかどうか」です。学生時代にグローバルな体験を積んでおくことは、卒業後の活躍の場を広げることにもつながります。

受験生は狭い視野で志望校を選びがちです。保護者としては、「4年間を通じた学び」や「社会に出てからの姿」などの多様な観点で大学を見ることを伝えながら、進路選択をサポートするのがよいでしょう。

## 大学選びの 5つの チェックポイント

右のページで紹介したように、社会の変化に伴って大学教育を見るべきポイントも変化しています。ここではポイントを5つにまとめ、具体的な視点を紹介します。ぜひお役立てください。

**重要** 子どもの志望校の教育をチェック!

- ..... **ポイント ①** .....
- 適切な専門性が身に付くか?
- ..... **ポイント ②** .....
- 知識を活用する力が身に付くか?
- ..... **ポイント ③** .....
- 個々の学生を伸ばす  
しくみはあるか?
- ..... **ポイント ④** .....
- 成長を社会に結びつける  
キャリア形成支援を行っているか?
- ..... **ポイント ⑤** .....
- グローバルスキルは身に付くか?

### ① 適切な専門性が 身に付くか?

☑ 将来役立つ力が身に付く  
専門教育があるか?

学部の専門教育の内容、カリキュラムなどをパンフレットや公式サイトで確認しましょう。また「論理的思考力など、どのような力が身に付くか」という観点も大切です。

☑ 教育内容がアップデート  
されているか?

教育内容が実社会で通用するものになっているのか確認しましょう。「豊富な実務経験を持つ教員がいるか」も一つの目安になります。

☑ どのような資格を  
取ることができるか?

大学によっては資格取得のための課外講座を設けている場合も、「資格対策プログラムがあるか」「合格実績はどのくらいか」も確認しておきましょう。

### ② 知識を活用する力が 身に付くか?

☑ 双方向型の授業に  
なっているか?

教員が一方的に話す講義形式の授業だけでは、知識の活用は望めません。グループワークやティベートなどを取り入れているかも確認したいところです。

☑ ラーニング・コモンズ  
などの施設はあるか?

ラーニング・コモンズとは、図書館などに設けられた、自主学習のための環境のこと。こうした施設があれば、グループ学習や討論会などが促進されます。

☑ 課題解決型の学びを  
行っているか?

知識をインプットするだけでなく、アウトプットする機会が設けられているかどうか重要です。課題解決型の授業が行われているかどうかもチェックを。

### ③ 個々の学生を伸ばす しくみはあるか？

成長が目に見えてわかる  
しくみがあるか？

成長が見えるしくみとして、思考力などを測るアセスメントテストや学生アンケートを実施する大学もあります。チェックしてみましょう。

学生の成長を後押しする  
指導が行われているか？

学生の力を可視化して終わるのではなく、その後の成長に向けたフォロー体制が整っているか、ということが最も重要です。指導の手厚さも確認しましょう。

正課の授業以外に成長に  
つながる活動があるか？

地域の人と協働する教育プログラムや、企業との共同プロジェクトなど、授業以外に学生の力を伸ばす機会を設けているかどうか調べてみましょう。

### ④ 成長を社会に 結びつける キャリア形成支援を 行っているか？

1年次からキャリア  
支援が受けられるか？

就活対策講座だけがキャリア支援ではありません。1年次から学生のキャリア観を育むような教育を行っているかどうかも重要になります。

インターンシップは  
充実しているか？

インターンシップの提携先企業が充実しているか、「単位認定するインターンシップを設けているか」といった点も見ておくとういでしょう。

就職サポート体制が  
手厚いか？

面接指導やエントリーシートの添削指導といった個別対策のほか、保護者向け説明会、低学年向けセミナーなどを開催する大学もあります。

### ⑤ グローバルスキルは 身に付くか？

留学制度は  
充実しているか？

「留学の種類は豊富か」「単位が付与されるか」「求められる英語レベル」などに加え、協定校数、地域、実際の留学生数も調べておきましょう。

留学生の割合は？

留学生が多ければ、英語でのコミュニケーションや異文化交流の機会も増えるはずですが、学内で異文化体験イベントなどがあるかも見えておくとういでしょう。

コミュニケーション重視の  
英語教育を行っているか？

今後は、英語を「読む」「書く」だけでなく、「聞く」「話す」の力が重要になります。ネイティブの教員による発話主体の授業があるのかも確認したいところです。